久田野Ⅰ遺跡

市内でも数少ない複式炉をもつ遺跡

久田野Ⅰ遺跡は市内東部、北上川とその支流・猿ケ石川にはさまれた台地上にあります。周辺には縄文時代中期の大きな集落跡として知られる久田野Ⅱ遺跡などの遺跡が密集しており、一帯は市内でも有数の縄文遺跡群となっています。

これまでの発掘調査では、今から約 4,500 ～ 4,000 年前の縄文時代中期後半の竪穴住居跡 3 棟や陥し穴状遺構 11 基ほかが見つかっており、特にも北西向きの斜面部から見つかった住居跡には複式炉とよばれる特徴的な炉跡 (住居内部の壁際近くに石敷の掘込と土器を埋めた炉が続くもの) があり、注目されます。